

能登半島地震を踏まえた道路のあり方

ライブ配信
オンデマンド配信

開催内容

災害時こそアクセスルートとして最大限に機能することが求められる高規格道路が被災し十分に機能することができなかったという、道路ネットワーク政策における根幹的な問題が生じた。また、能登半島地震における災害対応から得られた教訓事項を踏まえ、令和6年6月、社会資本整備審議会 道路分科会 国土幹線道路部会において、今後道路行政が取り組むべき方向を「令和6年能登半島地震を踏まえた緊急提言」としてとりまとめたところ。能登半島地震を踏まえた広域道路ネットワークや技術基準などの道路のあり方をテーマとして、この分野をリードする専門家の皆様から、ご講演いただきます。

プログラム

日程：11月6日(水) 13:15～15:15

オンデマンド配信：11月12日～12月12日

▶ 大転換期の国土とインフラ

講師：家田 仁 政策研究大学院大学特別教授



東京大学工学部土木工学科卒業。日本国有鉄道、東京大学教授を経て、2021年から現職。第108代土木学会長。国土交通省国土審議会、交通政策審議会、社会資本整備審議会などの委員を歴任。専門は、社会基盤学、交通・都市・国土学。能登半島地震の土木学会調査団に参画し2月に現地調査を実施。

人口減少・気候変動・様々な災害、デジタル化とともに進む社会と人々の価値転換が進む中、わが国のインフラ政策に関しても、水平展開を基調とする従来のスタンスから、今や大きな進化すなわち垂直展開に舵を切ることが求められるのではなからうか？能登半島の複合災害をはじめ近年の諸事象を取り上げながら、これからの転換の理念について論じてみたい。

▶ 令和6年能登半島地震を踏まえた緊急提言について

講師：桑野 真一郎 国土交通省 道路局 企画課 道路経済調査室 企画専門官



早稲田大学大学院修士課程修了（建設工学専攻）。国土交通省入省後、岐阜国道事務所長、沖縄総合事務局開発建設部企画調整官等を経て、2023年から現職。現在は、高規格道路等の計画・調査などに関する業務を担当。

令和6年6月に国土幹線道路部会でとりまとめた「令和6年能登半島地震を踏まえた緊急提言」について概説する。

▶ 令和6年能登半島地震を踏まえた技術基準などの対応について

講師：増 竜郎 国土交通省 道路局 国道・技術課 企画専門官



九州大学工学部機械工学科卒業。建設省入省後、能代河川国道事務所長、総合政策局公共事業企画調整課企画専門官等を経て、2023年から現職。現在は、道路構造物の技術基準・技術研究開発などに関する業務を担当。

今般の地震による各道路構造物の被災状況を踏まえ、道路技術小委員会において議論している、技術基準の改善などの対応について概説する。

申し込み方法

参加を希望される方は、当協会ホームページの参加申込フォームからお申し込みください。



■ 参加費

日本道路協会

会員 2,000円
非会員 4,000円

講習会にご参加頂いた方には、今後のセミナー内容や開催方法等に関するニーズを把握するためのアンケート調査にご協力いただきますので、よろしくお願いいたします。

お知らせ



本セミナーは、土木学会CPD制度の認定セミナーとなっており、土木技術者の皆様の知識向上や自己研鑽の証跡となるCPD単位が取得可能です。